

第3回 中部の地域づくり委員会 議事概要

1. 日 時

平成31年2月5日（火） 15:00～16:30

2. 場 所

名古屋都市センター 11階ホール

3. 出席委員

奥野信宏座長、内田俊宏委員、小川正樹委員、後藤澄江委員、佐々木委員

4. 議 事

(1) 「リニア時代の“ものづくり”対流拠点形成」の検討について

- ①中間とりまとめ（案）
- ②アンケート調査結果【報告】

(2) 今後の進め方（案）

上記について、事務局から説明。その後、意見交換を実施。
各委員から出た意見主な意見は以下のとおり。※意見は発言順で記載。

(1) 「リニア時代の“ものづくり”対流拠点形成」の検討について

① 中間とりまとめ（案）

（内田委員）

- ・ 国際的にみた我が国の製造業の労働生産性の低下には為替が影響しているのではないかという話について、他に比べてかなり行数と文字数が増えているので、「前年（2015年）と比較して順位を落としている」以降の部分は補足と言うか、括弧書きの補足説明というかたちで全体のバランスを取っても良い。
- ・ リニア中央新幹線で東京都－大阪市間とあるが、東京都に対するなら大阪府が良い。もしくは品川－新大阪間等、表記を統一したほうが良い。
- ・ 空港の表記も、中部国際空港と羽田空港等、正式名称と通称が入り乱れているような印象を受けるので、全て通称で統一した方が良い。

（奥野座長）

- ・ リニアの東京都－大阪市間というのは、東京－大阪間で良いのではないか。

（佐々木委員）

- ・ 産業、製造業の国際競争力は為替レートが要因の1つになっているとは思いますが、一方で、特に電気産業で、IT化に立ち遅れたため、日本の製品がガラパゴス化し、国際競争に追い

つけなかったという点もあると思う。ここでは産業界の至らなさを援護するのではなく、叱咤激励のようなニュアンスの方が良い。

- ・ 大きな会議をする際、中部地区、特に名古屋市のインフラとしての会場が非常に少なく、限定されてしまう。そういった側面からも交通の利便性を上げるだけではなく、インフラ整備をしないと人を集められないと思う。

(奥野座長)

- ・ 名古屋国際会議場はかつて立派だったが、付近にホテルがないために会議を開催すると、会議場と名古屋市内のホテル間において出席者の送迎をしなければならない。また、会議場ではパーティ等も開催できないため、非常に不便である。来秋には、愛知県常滑市の空港島内に9万平米規模の国際展示場が開業予定である。名古屋市の金城ふ頭においても1号館が建て替え工事に入ると同時に2号館・3号館も順次工事に入り、6万平米まで増大が見込まれるが、8万平米くらいまで増大できないか。それでも、中国と比べると1桁劣っており、ドイツと比較した場合においてもさらに広大な規模が必要である。ホテルに関しても規模の大きなホテルが、名古屋マリオットアソシアホテル以外に同水準のホテルがあっても良いのではないか。日本最大級の展示場を整備するだけではなく、MICEの会場がもう少し増えてくると良い。

(後藤委員)

- ・ 女性の労働力や外国人というところで、意見が反映された。ただ、実際にどのように積極的な視点として入れ込んでいくかについてはさらなる検討が必要である。
- ・ 名古屋には大規模かつ外国人に支持されるようなホテルがもう少し必要であり、さらにイベント会場と一体となったホテルを期待したい。前提として、この地域に観光とビジネスの両方の面で、外国の人たちがここで宿泊したいと評価されるようなまちづくりが非常に重要になってくる。その結果、自然と海外から評価されるようなホテル等もできる。

(奥野座長)

- ・ 金山地区でも新しいホテルが建設されているが、どれも小さなビジネスホテルであり大きな規模ではない。名古屋にはホテルが無いという理由から早くに消灯してしまうため、他の都市に宿泊するという事に繋がっているのではないか。名古屋市商工会議所の会議に出席した際、重要な施策の一環としてナイトライフというものが挙がっていた。こうしたことも踏まえ、大きなホテルが必要である。

(小川委員)

- ・ ホテルのところで、“5つ星ホテル”といった表現も入れ込んでほしい。
- ・ P29に参考として経済団体のイノベーション活動についての記載があるが、現段階ではまだ卵状態の事例があるため、間に合うようであれば追記してほしい。
- ・ 各地方に企業が移転した際に助成を受けられる制度があり、企業そのものを引っ張ってくるといった視点をどこかに記載してほしい。

(奥野座長)

- ・ 海外企業の誘致についてはグレーター・ナゴヤ・イニシアティブが活躍をしていて、万博の剰余金による運営を10年間続けていて、誘致した海外企業は100社を越えている。元々日本は海外に投資はするが、海外からの投資が少ない。これは名古屋のみならず東京においても言えることで、少ない投資が東京に集中してしまっている。そういった意味ではグレーター・ナゴヤ・イニシアティブが一定の成果を上げてきている。
- ・ p35には子供のIT教育について軽くふれているが、非常に大切なことである。1980年代前半、アメリカの小学校の教室にはPCが置いてあり、小学生がLOGOのような簡単な言語を使って自分でプログラムを組んで遊んでいた。当時の日本ではまだ普及しておらず、名古屋市役所では部屋に1つPCが導入されたのが2000年近くになってからである。大学の場合はPCの導入がもう少し早く、PCに対する馴染み方の違いがアメリカの情報産業の根幹となっていると10年前から強く感じていた。少し記載があるが、非常に大事なことである。

(佐々木委員)

- ・ 中国では電子決済が進んでおり、ほとんど現金を使わないといったIT化が進んでいる。そのうえで、スマートフォンが使えないことを自慢する世代を一掃し、海外の観光旅行者にも対応できるよう地方の観光地でも電子決済等のIT化を進めていかないと、商売として成り立たなくなってしまう。そういった取組みもIT化の重要な役割であるため、中部圏が率先してIT化を進めることで様々な良い効果が現れるのではないか。

(奥野座長)

- ・ 非常に良い意見をいただいたので、更に事務局の方で手を加え、後ほど委員の方に確認していただき、決定については事務局と私に一任させてほしい。

② アンケート調査結果【報告】

(奥野座長)

- ・ 最近は大学によるベンチャー立ち上げの支援が増えてきた。この頃は中国の大学発の企業が非常に多くて、大学付近に大きな工業団地を造って、そこで大学関係者がどんどんベンチャーを立ち上げるという事例があった。その時、中国では日本と異なっていて、民間より大学に優秀な人材が集まっていると感じた。マスコミ報道等によると、前職で大学に従事していた人がベンチャー企業を立ち上げるという事例も随分出てきている。以前、大学によっては企業に勤めずに、自分で企業しようという学生数が多い大学と少ない大学を調査したことがあり、東京大学・京都大学・名古屋大学といった大学の学生は良い企業に就職する一方で、ある電気系の大学においては自分でどうにかしようという学生が比較的多かった。なぜかと聞いたところ、優良企業に入れないため自分たちで起業するより仕方がないと言っていた。しかし、こうした動機ではなく、研究室の研究成果を教授と共有しながら企業するといったケースがあり、前職の業種は支援を考える際に大切になってくる。

賃料が安いということも重要であり、最初に IT ベンチャーが進出し始めた当時、起業の人気エリアは賃料の安い北海道大学と札幌駅の間であった。次第に、東京の秋葉原での起業が盛んになって、名古屋でも伏見から今池あたりの古いビルでベンチャー企業が発展した。居住環境に関する質問があったが、真夜中でも店が開いており、いつでも食事が摂れるといった環境が大事なのだといった話も挙げた。一流企業の就労者とベンチャー起業の就労者において、居住環境に対する意識が随分と違うという印象を受けた。

(内田委員)

- ・ リニア時代に向けて中部圏が首都圏・関西に比べて‘強み’が何かということを念頭に置きながら、アンケート結果をまとめてほしい。
- ・ アンケート調査結果の「まとめ」に関しては、単に項目をピックアップするのではなく、結果を踏まえて定性的な取りまとめをお願いしたい。中部、名古屋の交流圏になるようなところ、そこから出てくるものをもう少しイメージできるような形のまとめにしても良い。
- ・ IT 企業に関しては全体の企業よりかなり住空間・住環境の豊かさやワークライフバランス、職住近接、テレワーク等を重視する傾向があり、IT 技術者のメンタル面の配慮などが必要になった場合、自然との近接性といった面で中部圏はかなり売りになるではないか。
- ・ 中部のナイトライフとして、都市部以外の中部独自のアンケート項目が少しあると良い。
- ・ 今後アンケートを実施する機会があれば、中部の売りを前提としたようなアンケート項目も入れると良い。
- ・ オフィス立地の際に重視する住環境で「治安が良い」という項目が結構高くなっている。愛知県警から愛知県は全国の中でもワーストだと言われているが、東京・大阪に比べてどうかという点も知りたい。

(奥野座長)

- ・ ベンチャー企業も、それぞれの企業の発展の段階で求めるものが違う。起業当初は必死で働いているため住環境を重視しておらず、IT 企業においても同様の傾向がある。ある程度会社が軌道に乗ってくれば、色々な段階があっても良いかもしれない。ベンチャー企業においては、企業が今どの段階にいるのかということが重要である。以前に、トヨタ自動車や中部電力等で、社員に対して関係事業に関する独立を支援するということが随分話題になった。

(佐々木委員)

- ・ 企業内ベンチャーとして色々な起業があったが、残っているものは2つである。1つ目はセラミックの粉を作る企業で、半導体などに流用できるということで軌道に乗った。2つ目は自家発電に応用できるガスタービンを開発する企業である。しかしながら、企業内で起業するとなると自分の経験の範疇を超えたものは出てこないのが実状である。

- ・ 最近は大学と連携して実施している。例えば、九州の某工場では場内物流の無人化をスマホの通信を利用して場内を交通管制するシステムを提案し、実用化にかなり近づいている。
- ・ 岩手の工場では、東北大学と岩手大学が協力して人間と共存できるロボットを開発している。そこでは推力の弱いロボットが作業者の後ろについて工具を渡す。作業者が不意の動きでロボットとぶつかっても、ロボットが負けるため怪我しない。これもかなり良いレベルになっている。

(後藤委員)

- ・ 賃料が安いこと、職住近接、広い空間ということは、誰もが望んでいると思う。また、自分のビジネスに有効な人や企業とは交わりたい一方で、しがらみや自身によるネットワークの形成といったことは望んでいない。
- ・ 安い賃料や広い空間が与えられたとしてもそれが非常に使いづらく、人間関係を密に築かないといけないとなると、もう少し自由な空間が重要となり得ることが自由記述から見て取れる。一方で、ハード的な制度を整えていくことが大切だと思うが、意識を読み取り組み合わせることによって様々なところで運営していくことが必要である。
- ・ 回答者の性別、創業者か否かといった詳細なことが分からなかった。回答者の立場等によって回答が違うのかという点も明確にしてほしい。

(小川委員)

- ・ ITベンチャーの皆さんが「ワクワクする」や「知的刺激を求める」と回答しているが、この街に尖った強さがあるかと考えると、どちらかというところ「あまり冒険をしない」「リスクをとらない」という印象がある。ワクワクするようなことが生まれる刺激、起爆剤づくりのようなことが大切なのではないか。
- ・ 自由記述を熟読すると良い意見があり、この地域全体で活かしていくことが大切である。

(奥野座長)

- ・ このようなアンケート調査は非常に大事である。毎年ではなくとも次の機会に活かすべきである。
- ・ アンケート調査に伴う中間報告の記述は、今日の発言を踏まえて、再度事務局で見直してから委員の先生方に確認いただき、最後は私に一任させてほしい。

(2) 今後の進め方 (案)

- ・ 意見なし

(以上)